

社会を支えた石の技術  
～ その成立と展開を考える ～

第1回 「古代の石積み」  
～ 県内の古墳発掘調査成果を中心に ～

講 師 山梨県埋蔵文化財センター  
吉岡 弘樹

主 催 山梨県生涯学習推進センター・山梨県埋蔵文化財センター

# 「古代の石積み」 ～ 県内の古墳発掘調査成果を中心に～

山梨県埋蔵文化財センター  
吉岡 弘樹

古代の石積みにはどのようなものがあるのか？  
神籠石

寺院などの基壇

古墳

山梨県内における古墳の事例  
姥塚古墳



【 古墳の位置 】



【開口部より見た古墳の様子】

所在地 笛吹市御坂町井之上

古墳時代後期(6世紀後半)の横穴式石室を持つ古墳で東日本最大級の大きさを誇り、付近の大集落である姥塚・二之宮遺跡に関連した有力者の墓とも考えられています。

規模

直径 約40m  
高さ 約10m  
石室 全長 17m以上  
高さ 約4.2～2.5m  
幅 約3m



【 羨道から石室を見る 】



小型の自然石を奥に深くなるように使用(小口積み)して、天井石を安定させています。

【 左側壁と天井の接続状況 】

平林2号墳



【 古墳の位置 】

所在地 笛吹市春日居町鎮目

古墳時代後期の6世紀後半に築造され、8世紀第2四半世紀まで追葬が続けられる横穴式石室を持つ古墳です。

平成10年に発掘調査が行われ、馬具、武具類のほか、装飾品類など多くの遺物が出土しました。

なお、これらの副葬品は、県の文化財指定を受けています。

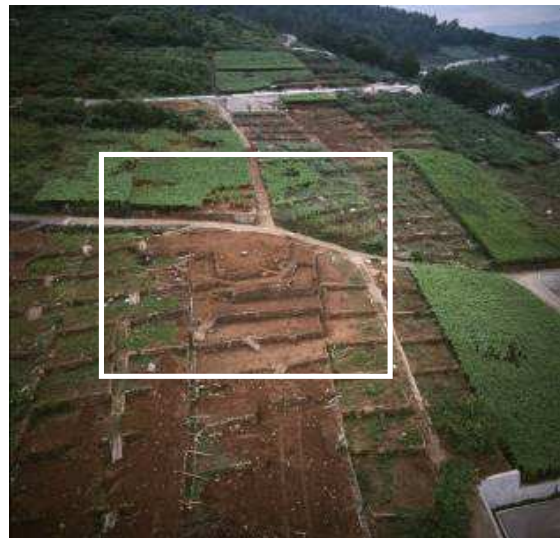
また、古墳は石室のみが当時の春日居町が主体となって移築保存されました。

規模

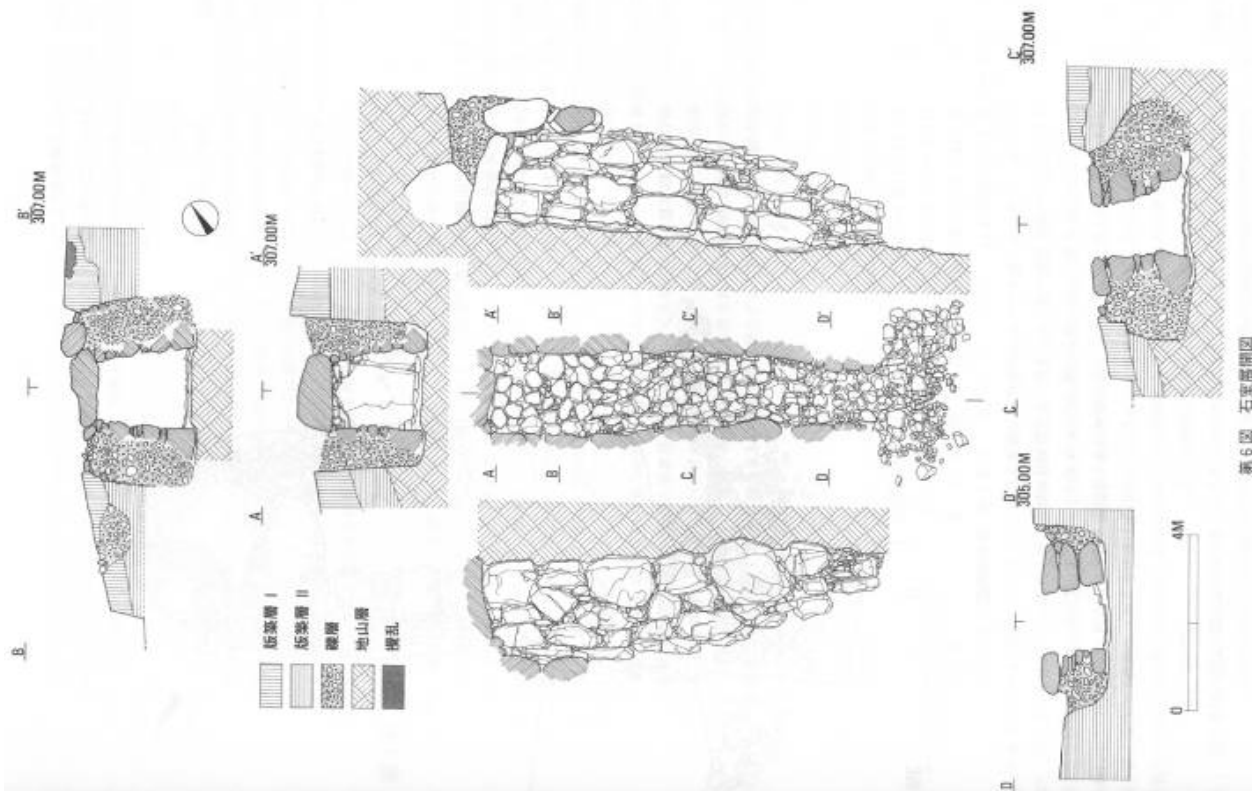
直径 約15m  
 高さ 約4.7m  
 石室 全長 8.6m  
 高さ 2.1m  
 幅 約2m



【 石室の状況 】



【 調査前の古墳 】



第6図 石室展開図

【 石室展開図 】

### 経塚古墳



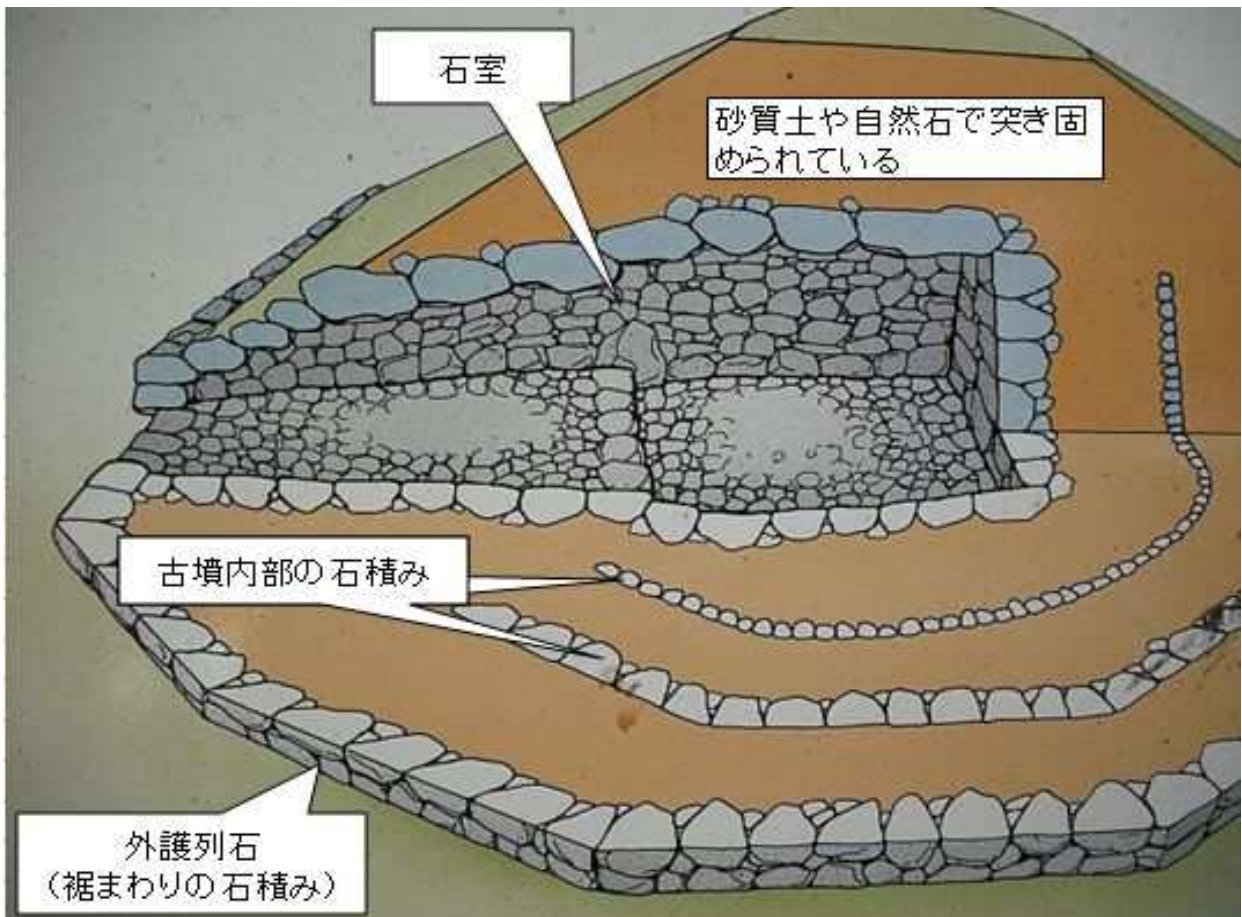
所在地 笛吹市一宮町国分

古墳時代終末期7世紀初めに築造された、県内唯一の『八角形墳』です。

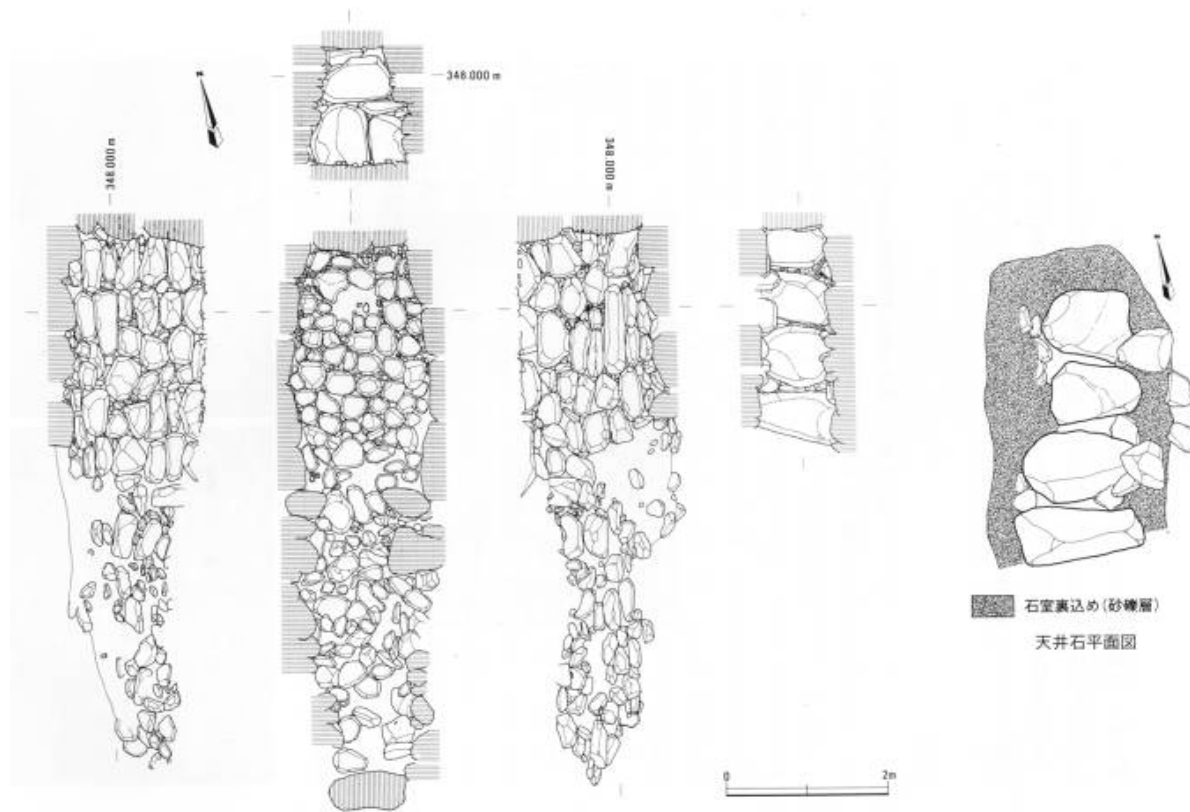
平成6年に完全解体発掘調査が行われ、それまで、円墳と考えられていましたが当時、東日本3基目の『八角形墳』ということが判明し、注目を浴びました。復元保存後に県の文化財指定を受けています。

規模

直径 約13m  
 高さ 約2.2m  
 石室 全長 約6.6m  
           羨道約3.6m  
           玄室約3m  
 高さ 約1.6m  
 幅 約1.76m



【 経塚古墳内部模式図 】

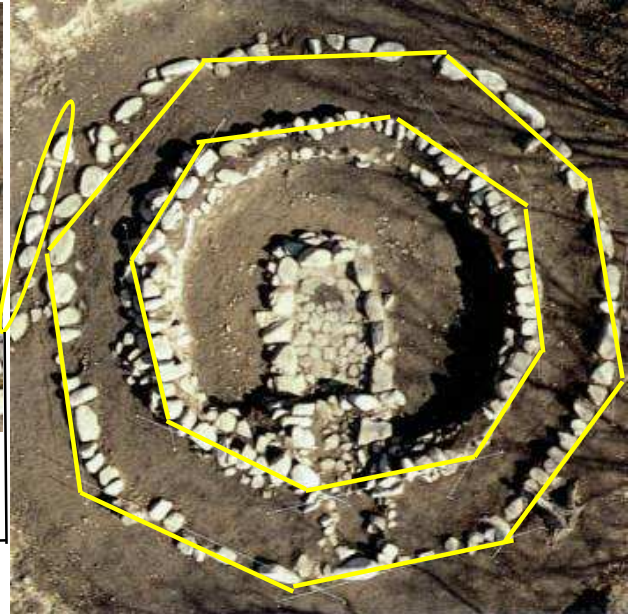


【 石室展開図 】

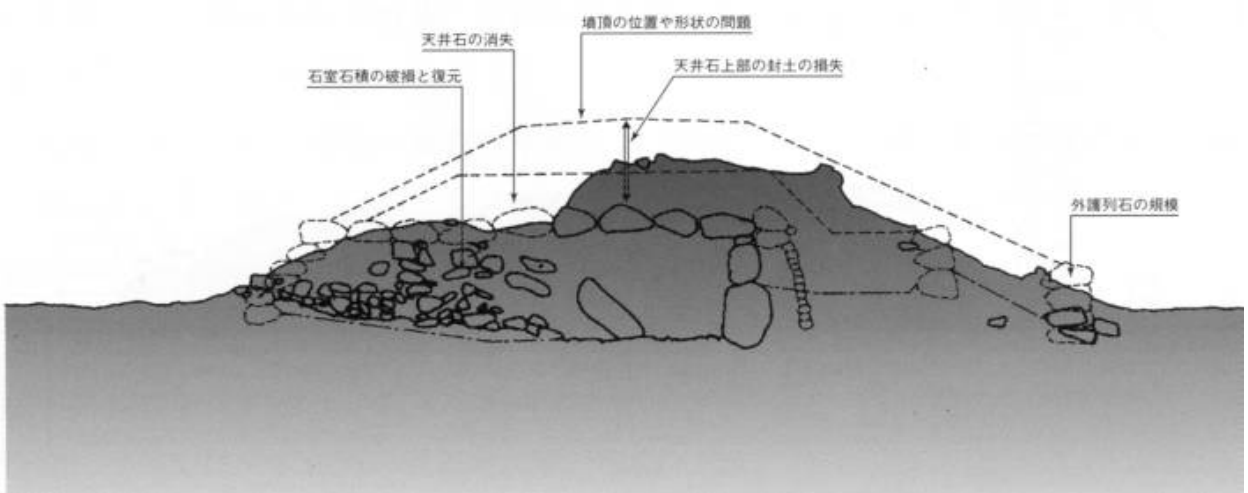
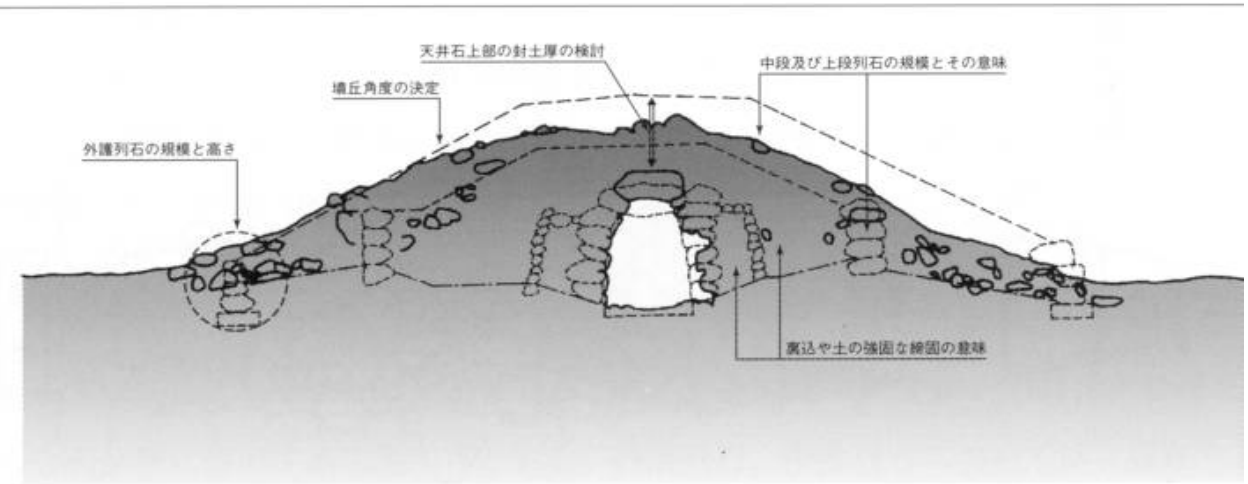


石列の間は砂質土と小型の自然石によって固く版築されています。

裾を押さえる石列

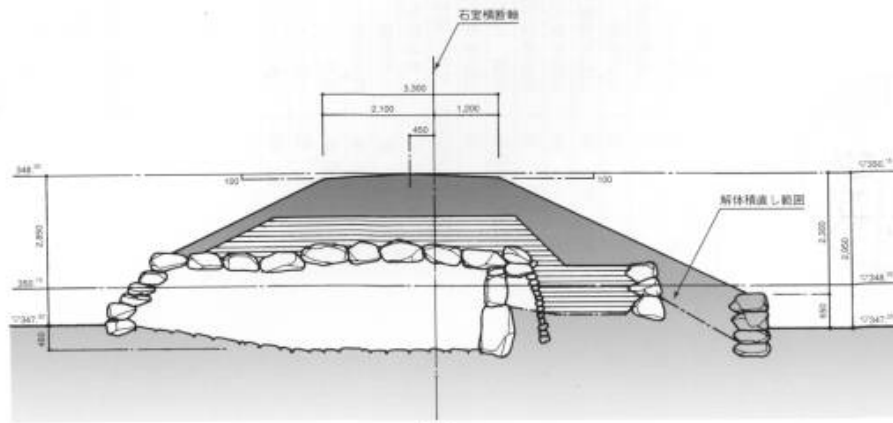
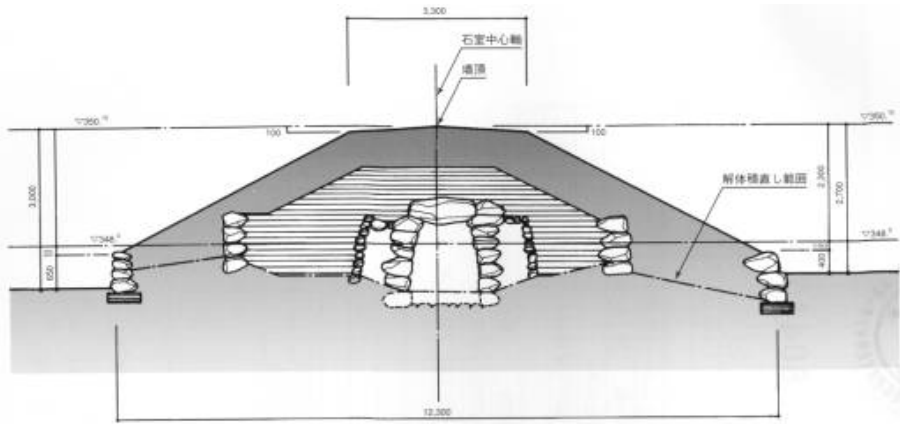


【 基底部の石のみを残した状態 】

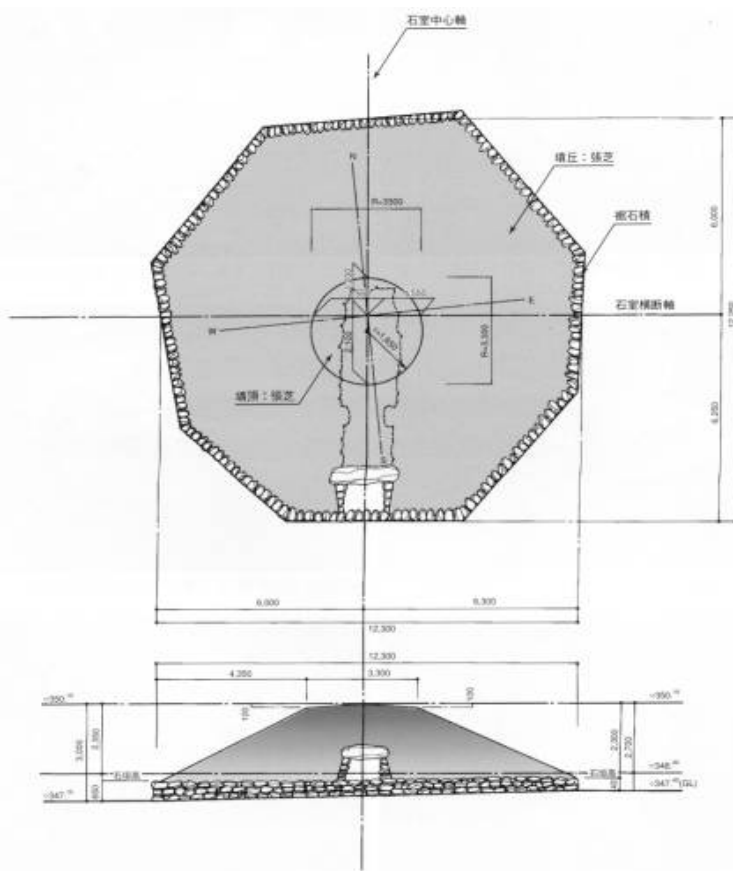


【 破損状況 】

【 破損状況 】



【 設計図(墳丘) 】



【 設計図(墳形) 】